

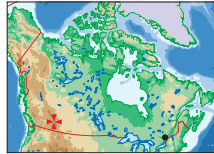


Canadian Rocky Mountain Parks

カナディアン・ロッキー山脈国立公園群



カナダ 自然遺産/1984年登録
1990年範囲拡大 登録基準/(vii)(viii)

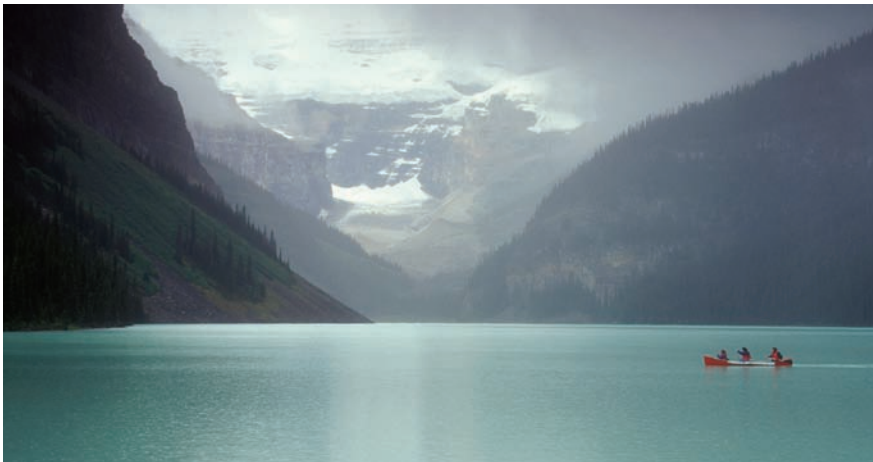


氷河が作り上げた雄大な山岳地帯

カナダにあるカナディアン・ロッキー山脈国立公園群は、北アメリカ大陸を西部から南北に貫く総長4,500kmのロッキー山脈の北2,200kmを占める山岳地帯である。カンブリア紀から白亜紀の粘板岩や砂岩、石灰岩からできているロッキー山脈は、およそ6000万年前の造山活動によって誕生した。その後、山を氷河が削り現在のような峻険な峰々を形成し、公園内には氷河がもたらした地形が数多く点在する。「カナディアン・ロッキーの宝石」と呼ばれるルイーズ湖やペイトー湖などの氷河湖や、コロンビア大氷原やタカウ滝、ヨーホー渓谷などがその代表例である。

カナディアン・ロッキーでは標高1,000mの低山から森林限界を超える高山帯まで、多種多様な植物が自生しており、山麓には針葉樹の森が広がる。こうした森にはグリズリーやアメリカグマ、アメリカライオンなどが生息し、山岳地帯には、雪や氷の斜面、岩山の歩行を得意とするシロイワヤギなどが生息している。

19世紀末、カナディアン・ロッキー山脈西部に鉄道が敷設されたことや、温泉が発見されたことが契機となって、バンフ国立公園が誕生。以後、一帯の雄大な自然が注目を浴びようになり、アメリカの国立公園制度の影響を受けて、20世紀前半までにジャスパー、ヨーホー、クートネーの国立公園

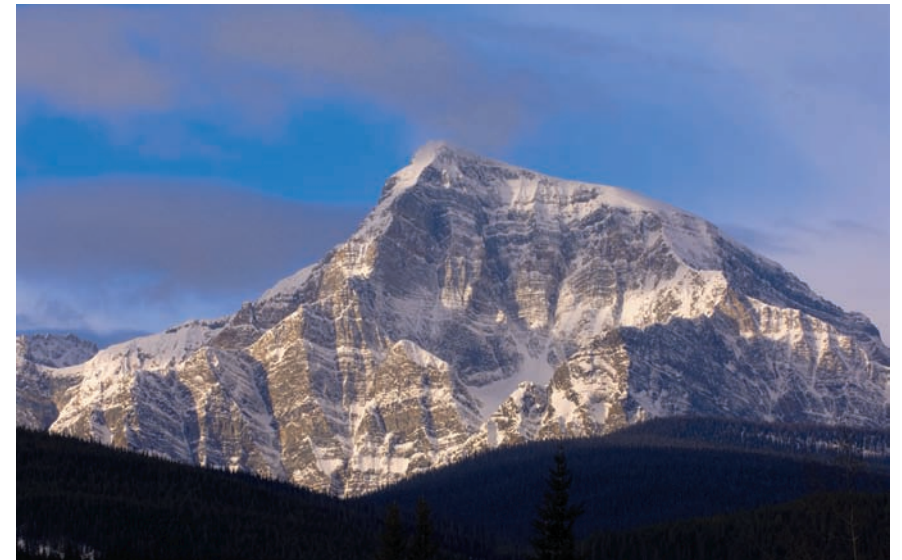


バンフ国立公園内にあるルイーズ湖

と、3つの州立公園が制定された。現在この公園すべてが世界遺産に登録されており、総面積は約2万3,000km²にもおよぶ。また1910年に、古生物学者のチャールズ・ウォルコットが山脈内のスティーブン山から、約5億3000万年前のカンブリア紀中期の化石を多く発見。発見された地層はバージェス頁岩と命名された。それまで知られていなかった三葉虫など古代の生物の多様性を知るうえでも、カナディアン・ロッキー山脈は重要視されている。

カナディアン・ロッキー山脈国立公園群の主な国立公園と州立公園

バンフ国立公園	カナディアン・ロッキー山脈南東部の国立公園。ルイーズ湖などがある。
ジャスパー国立公園	世界遺産登録地域の約半分を占める、カナディアン・ロッキー山脈の最北部の国立公園。公園内の約7割が人跡未踏の地となっており、コロンビア大氷原などがある。
ヨーホー国立公園	バンフ国立公園の西側に接する国立公園。ヨーホー渓谷、タカウ滝、スティーブン山などがある。
クートネー国立公園	カナディアン・ロッキー山脈の最南部の国立公園。氷食谷、氷河湖など典型的な氷河地形が集中している。
マウント・ロブソン州立公園	標高3,954mのカナディアン・ロッキー山脈最高峰のロブソン山がある。



カナディアン・ロッキー山脈